

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「山岳高原」伊那路・木曾路誘客促進事業
事業主体 (連絡先)	伊那路・木曾路広域観光連携会議 (木曾地区担当：木曾観光連盟 木曾郡木曾町日義 4898-37 0264-23-1122)
事業区分	⑥産業振興、雇用拡大に関する事業 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,468,833 円 (うち支援金： 1,175,000 円)

事業内容

【観光誘客事業】

- ・「信州 DC 伊那路・木曾路観光展」の開催
- ・信州 DC と連動した観光キャラバンの実施
(平成30年6月15日～16日)
- ・ビックカメラにおける「伊那路・木曾路の物産展：お酒フェア」との連携



【名古屋駅キャラバンの様子】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①観光キャラバンを信州DCと連携することで、新たな旅行商品が造成されるなど誘客効果の定着につながれた。
- ②御嶽山噴火後から4年が経過する中で、現状の正しい情報を発信することで、次年度以降に期待が持てるPRができた。
- ③伊那路と木曾路が協働して観光キャラバンを実施する事で連帯感がより強固となり、併せて特産品のPRをする中で、伊那路と木曾路の周遊観光の動機づけができた。

【目標・ねらい】

- ①信州 DC の誘客効果の定着
- ②御嶽山噴火の影響からの復興
- ③伊那路と木曾路の連携強化

※自己評価【 B 】

【理由】

全体的には信州 DC との連動により、効果的な誘客活動が展開できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

平成28年から3年間に渡り、JRグループ6社が中心となって実施された信州DCと連動して観光誘客活動を実施する事は、その効果も大きく、今後もJR東海と連携して伊那路と木曾路への集客を図っていきたい。また、益々多様化する旅行者のニーズには、伊那路・木曾路といった広域連携により対応する事は大変有効であると考えられ、今後もこの流れに継続して取り組んでいきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある